

別添 2

宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクトまとめ

平成 27 年（2015 年）11 月

宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクト

目 次

1 趣 旨

2 今後の具体的計画

(1) 3年保育について

(2) 保幼小中の連携教育の推進に果たす役割について

(3) 保護者の子育て応援団としての役割について

(4) 就学前の充実に向けた「幼児教育センター」の役割について

(5) 幼保の質の向上を図る公立幼稚園の認定こども園のあり方について

(6) 適正規模・適正配置による教育環境の充実について

宝塚市幼稚園教育審議会答申書

宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクト設置要綱

宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクト審議経過

宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクト委員名簿

関係資料

- ① 宝塚市公立幼稚園 定員数及び園児数
- ② 宝塚市内幼児の公私立幼稚園、保育所への就園（入所）率の推移
- ③ 公立幼稚園4歳児定員に対する応募者数の割合
- ④ 保育所・幼稚園等の利用希望（3歳になってから小学校に入るまで）
～「子どもの成長と子育てに関するアンケート調査」より
- ⑤ 幼児教育センター(概要)およびイメージ図
- ⑥ 市立幼稚園に関するアンケート集計表

1 趣 旨

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要なもので、市立幼稚園12園では、幼稚園教育要領に則った教育を実施し、物事への興味・関心、持続力や集中力など小学校以降の学習に必要な力の基盤づくり、基本的生活習慣の育成、特別に支援を要する幼児への教育、地域の子育て支援などにも力を注いでいます。

平成21年度には、県下で初めて市立幼稚園として既存の西谷幼稚園に保育所を付加させた幼稚園型認定こども園を開園し、平成24年度から阪神間他市に先駆けて全園で預かり保育を実施し、平成25年度には、市立幼稚園として初めて市立西谷幼稚園で3年保育を実施しました。

しかしながら、近年、基礎幼児数の減少から市立幼稚園への就園状況は減少傾向にあり、今後、大幅な増加は見込めない状況にあります。

こうしたことから、将来に向けた市立幼稚園に求められる機能や役割を整理するとともに、教育内容の充実策のほか、効率的・効果的な運営体制等、今後の就学前の幼児教育のあり方について、平成26年（2014年）5月19日に宝塚市幼稚園教育審議会に諮問し、平成27年3月31日に答申をいただきました。

本年度は、この答申を受け、宝塚市立幼稚園等のあり方研究プロジェクトを設置し、答申内容について協議を進めてきました。

については、市立幼稚園の今後のあり方とともに市全体における就学前教育の充実を目指し次のようなまとめといたします。

2 今後の具体的計画

(1) 3年保育について

既に3歳児保育を受け入れるために施設設備が整っている幼稚園での実施に取り組むべきである。保育ニーズの需給状況を勘案しつつ、過不足のない形で、条件が整った幼稚園での実施へと広げていくことが望まれる。(答申抜粋)

平成11年度に開催された宝塚市幼稚園教育審議会において、市立幼稚園で3年保育について研究実践するよう答申があり、平成15年度に、研究実践園として仁川幼稚園で3歳児用の保育室等の施設整備を行い、準備を進めていた。しかし、私立幼稚園との関係性から実施に至らなかったという経緯がある。今回は再度、宝塚市幼稚園教育審議会において、3年保育の必要性について議論された。

3歳児の発達には、特に自我が芽生え外界に目が向く時であり、その時に集団教育を受ける重要性や3歳から幼児教育を受けている子どもの語彙数が、そうでない子どもの倍近くであること、また文部科学省が定める幼稚園教育要領は、3年保育を想定して作られているなどということが議論の中で明確となった。

また、市民委員からは、3歳児を持つ保護者が、友達を求めて様々なところに出向くような状況から、私立だけでなく、市立幼稚園でも3年保育の機会を市民に提供することは必要ではないかという意見も出された。

本プロジェクトとしては、本市において健全な子どもの育成にはその基盤となる幼児教育が重要であることから、市立幼稚園で3年保育の研究実践を積み上げていくことが大切であると考えます。それが、将来的に小学校以降の子どもの育ちにつながることから、答申のとおり3歳児を受け入れる施設整備が整っている仁川幼稚園、長尾幼稚園で平成29年度から（募集は平成28年10月）3年保育を実施するべきであると考えます。募集定員については、すでに宝塚市立幼稚園規則に定められているように1学級20人とする。なお、実施に向けては、私立幼稚園に対して丁寧な説明と理解を得ることが必要である。仁川・長尾幼稚園以外の園での3年保育の実施など今後の方向性については、私立幼稚園との協議・検討の場を設けることが必要であると考えます。

(2) 保幼小中の連携教育の推進に果たす役割について

今後は、私立幼稚園・保育所を含む「幼稚園・保育所連携協議会」のあり方について検討し、共通カリキュラムを公私立幼稚園、保育所全体で活用することを通して、一人一人の子どもの育ちを保障していくことが重要である。このことで、就学前教育と小学校教育のスムーズな接続が図られ、ひいては就学前教育の充実につながるものとする。まず、保幼小連携教育において公立幼稚園が先導的な役割を担うことが必要である。(答申抜粋)

平成 20 年度に改定された幼稚園教育要領と保育所保育指針では、その内容に整合性が図られたことから、ここ数年、子ども未来部保育企画課と教育委員会学校教育課の庁内での連携が進み始めている。

就学前教育の充実には、幼保の連携が重要であることから、平成 26 年度に「幼稚園・保育所連携協議会」を設置し、市立幼稚園・保育所の合同研修会の実施や情報交換会、共通カリキュラムの作成など連携強化に努めている。今年度は、さらに私立幼稚園・保育園の代表者にもこの会に参加してもらうことで、市全体の幼児教育の充実を図ろうとしている。しかし、現状、私立幼稚園では、それぞれ建学の精神や理念に基づいて園経営・園運営に取り組んでいることから、公私立が同様に足並みを揃えて、取り組むことについては課題がある。そこで、共通カリキュラムの有効活用や研修の機会均等については後ほど述べる「幼児教育センター」が核となり、進めていくことが望ましい。本年度は、就学前教育と小学校教育のスムーズな連携を図るため、公立の保幼小中に加えて私立幼稚園・保育園の代表者による「保幼小中連携教育推進プロジェクト委員会」を設置し、安倉地域をモデルとした実践研究を進めると共に「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の作成に取り組んでいる。その中心として、市立幼稚園が重要な役割を果たしている。今後、その成果と課題を整理し、広く市内全体の取り組みとして広めていくことが求められる。そこで、今後、就学前の横のつながりと就学後を見通した縦のつながりを幼児教育センターで総合的に把握し、調査・研究し推進していくことが適切であるとする。

(3) 保護者の子育て応援団としての役割について

現在は、幼稚園教諭が勤務時間内でローテーション体制を組み、預かり保育に携わっている。今後、早朝や夕方の預かり保育時間延長による預かり保育の実施にあたっては、国からの交付金を有効に活用すべきであるとする。(答申抜粋)

平成 27 年 5 月から 7 月にかけて、市立幼稚園に通う保護者及び未就園児保護者を対象に「市立幼稚園に関するアンケート調査」を実施した。その結果、現在の在園児保護者では、「幼稚園での給食の実施」が 55%、「3 年保育の実施」が 47%、「小学校生活につながるための教育活動の実施」が 46%、「子どもの体力づくり」が 46% の順に希望が高かった。「預かり保育の充実」については、26%とそれ程高いパーセントではなかった。

2 番目に希望の高かった「子どもの体力づくり」についてだが、近年、全国的に子どもの体力や運動能力の低下が指摘されており、体を動かすことへの意欲や気力の乏しさ、人とのコミュニケーションの構築の難しさなど、心身の発達にも大きな影響を及ぼすことが懸念されている。そこで、市立幼稚園では、平成 27 年度より既に「健全な心と体の育成」をめざし、各園で取り組みを進めているところである。

未就園児保護者のアンケート結果では、「3 年保育の実施」が 64%、「子どもへの体力づくり」が 60%、「幼稚園での給食の実施」が 56% の順となっており、「預かり保育の充実」については 31%と、ここでもさほど高いニーズはなかった。

平成 24 年度より実施した預かり保育の状況は、初年度、12 園での年間のべ利用人数は 3,236 人、のべ利用回数は 8,006 回、平成 25 年度は、のべ利用人数は 3,682 人、のべ利用回数は 10,130 回であった。平成 26 年度は、のべ利用人数は 3,617 人、のべ利用回数は 10,030 回と前年度と比較すると横ばい状態である。フルタイムでの就労者が少ないことがこれまでの実情であり、市立幼稚園で預かり保育を実施したことで、短時間就労の保護者は増加しているが、フルタイムでの就労者は、預かり保育の導入を機に極端に増加しているということではない。

このような状況からすれば、当面、預かり保育の時間帯については、早朝、夕方の時間帯に拡充するのではなく現状のままとすることで特に問題はないと考える。

(4) 就学前の充実に向けた「幼児教育センター」の役割について

将来的には幼児教育内容の充実と教職員の資質と専門性の向上の核となる「幼児教育センター」の設置が必要である。そこでは、幼児教育に携わる公私立の幼稚園、保育所、認定こども園の教職員が学び合い、専門性を高め合うシステムが構築されたものであること。また、特別な支援を要する幼児の情報が一括して管理され、早期に適切な支援ができ、小学校へのスムーズな連携が図れるような組織体制も整備していくべきである。(答申抜粋)

現在は、公私立保育所の研修については、保育企画課が、市立幼稚園については、学校教育課が所管している。私立幼稚園については、兵庫県が所管していることもあり、市主催の会議や研修会に、参加の必須を促すことは難しい状況がある。

小学校では、入学してくる子どもたちが、就学前に属していた幼稚園・保育所等の施設において学びや生活経験等が異なることから指導の困難さを感じている。このような実態からも、就学前教育の向上を図るためには、市内全体での幼児教育のあり方について推進していくことが重要である。そのためには、幼児教育の充実と教諭・保育士等の専門性の向上の核となる「幼児教育センター」の設置が必要である。

「幼児教育センター」では、「公私立幼稚園、保育所、認定こども園の教育推進」「教諭・保育士等の質の向上の推進」「保幼小中の連携教育の推進」「就学に向けて特別支援教育の推進」を柱に据えるべきと考える。

この「幼児教育センター」は、教諭・保育士等の研修や保護者の相談等がしやすい場所が望ましく、また、これまで幼稚園・保育所を所管していたそれぞれの部署の業務内容や研修等を整理統合し、中身の充実につながるよう取り組みを進めるべきであると考えます。

(5) 幼保の質の向上を図る公立幼稚園の認定こども園のあり方について

少子化が本格的に進む中で、公的な乳幼児教育質の維持と向上を図るためには、公立幼稚園、公立保育所の枠を超えた認定こども園の議論が必要である。現状では施設改修や職員の研修等から、公立幼稚園を早急に認定こども園化することはハード面やソフト面からも難しい状況であるが、今後、待機児童問題や次世代育成について宝塚市としてどのように考えるのかという視点から、公立幼稚園の認定こども園をモデル的に実施し、着実に研究を進めていくことを望む。(答申抜粋)

平成 26 年(2014 年)12 月に策定された宝塚市子ども・子育て支援事業計画では、1 号認定における量の見込みと確保については、過不足はなく対応できる内容となっている。

推計では子どもの人数が年々減少傾向にあり、1 号認定の教育・保育の量の見込みは減少となるが、一方、2 号、3 号認定については、近年の認可保育所への利用希望、待機状況から保育需要が年々増加する傾向である。2 号、3 号認定における供給不足については、計画の中で、私立幼稚園の認定こども園への移行や私立幼稚園等を連携施設とした小規模保育事業の実施などにより対応することとしており、市立幼稚園での認定こども園化については、早急に必要ではないと考える。

ただし、国では、保護者の就労の有無に関係なく教育と保育を一体的に行う幼保連携型認定こども園を促進していることから、今後の国や県の動向を鑑みながら、情報の収集や本市の幼児教育の充実の視点から市立幼稚園の認定こども園の移行について「幼児教育センター」を核として調査研究を進めることが重要であると考えます。

(6) 適正規模・適正配置による教育環境の充実について

教員配置において、学年複数学級とすることで、教員同士が指導方法について協議ができ、組織的な園務分掌も確保され、教員が互いに切磋琢磨することで質の高い幼児教育の提供が可能となる。

適正な規模の目安としては、1学級当たりの園児数を20人程度とし、学年複数学級とすることが望ましい園規模であると考えられる。

全ての地域の子どもたちに、等しく、望ましい幼児教育を行う観点からも、一定距離の範囲内に公立幼稚園が配置されることが望ましいことから、全市的な視点に立ったバランスの良い施設配置についても検討するよう要望する。(答申抜粋)

適正規模・適正配置の範囲（答申の方向性）

項目	適正規模の範囲	特記
1学級当たりの園児数	20人程度	全ての子どもたちに、等しく、望ましい幼児教育を行う観点からも、 <u>一定距離の範囲内に公立幼稚園が配置されることが望ましい。</u>
1学年当たりの学級数	複数学級	

市立幼稚園の園児数は、平成25年度1,015人、平成26年度983人、平成27年度は936人と年々減少している。これまでは市立幼稚園が保育所を上回っていた就園率が、4歳児では平成22年度を機に、また5歳児は平成23年度を機に、保育所の就園率が高くなっており、保護者ニーズが市立幼稚園から保育所に移行しているのが伺える。

平成27年5月現在、答申の適正規模・適正配置の基準に適合しない1学年1学級の幼稚園数は4園（良元・西谷・末成・中山五月台）、1学級20人以下に該当する幼稚園数は7園（良元・小浜・宝塚・西谷・仁川・西山・長尾南）である。

ここ数年の市立幼稚園の園児数の推移では、西谷幼稚園は平成3年度より、良元幼稚園は平成7年度より、1学年1学級の状況が続いている。全国的な少子化傾向からも、今後ますますこのような状況が進んでいくものと予想される。

そこで、適正規模については、幼児にとって1学年2学級以上、1学級20人以

上を適切な教育環境と考えるとともに、適正配置については、市立幼稚園の就園希望者の受け入れと、私立幼稚園の立地状況を考慮し、市域の右岸側に2園、左岸側に4園、西谷に1園の計7園とすることが適正であるとする。

この考えに基づいて、公立幼稚園の適正規模・適正配置にかかる具体的な計画を別途作成することとする。

(参考) 市立幼稚園 (H27年5月現在) の状況

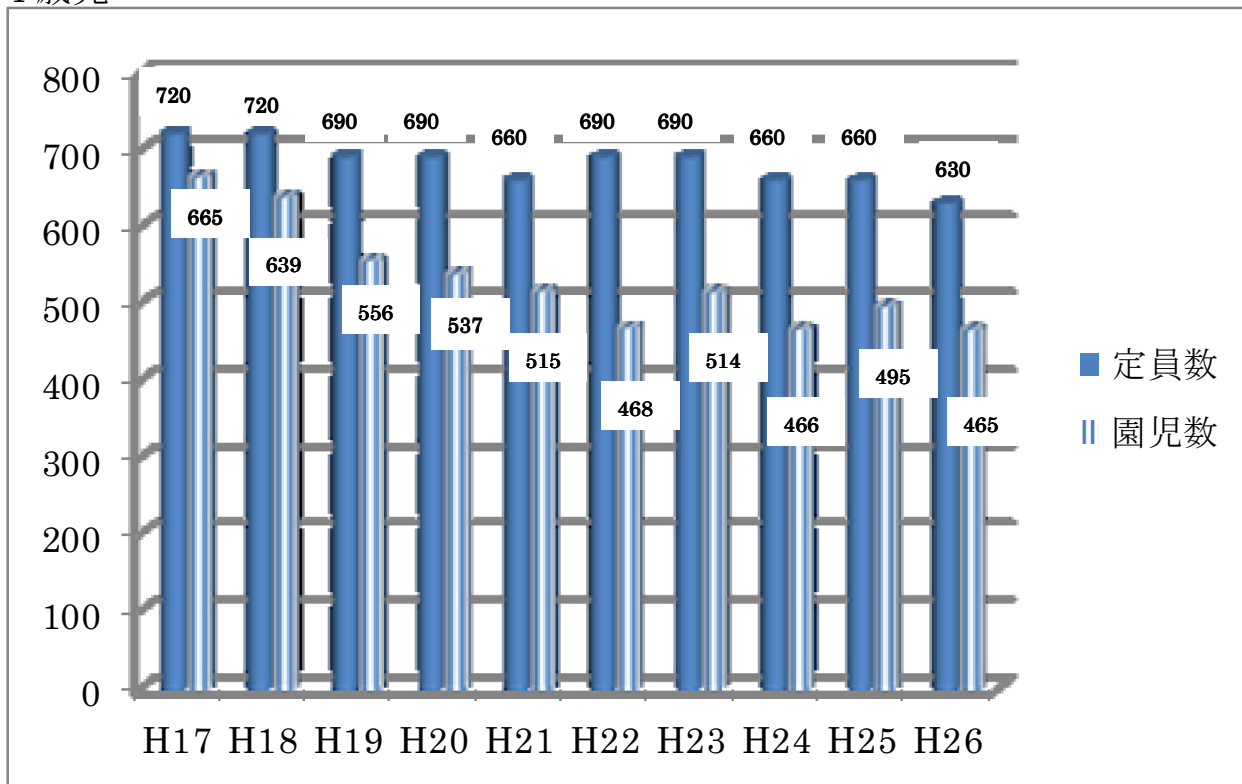
※下線は答申の適正規模に該当するところ

幼稚園名	3歳児		4歳児		5歳児		計	
	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数
良元幼稚園	—	—	<u>1</u>	<u>12</u>	<u>1</u>	<u>28</u>	<u>2</u>	<u>40</u>
小浜幼稚園	—	—	2	<u>35</u>	2	41	4	76
宝塚幼稚園	—	—	2	<u>32</u>	2	52	4	84
長尾幼稚園	—	—	3	74	2	63	5	137
西谷幼稚園	<u>1</u>	<u>4</u>	<u>1</u>	<u>8</u>	<u>1</u>	<u>9</u>	<u>3</u>	<u>21</u>
仁川幼稚園	—	—	2	<u>36</u>	2	42	4	78
西山幼稚園	—	—	2	<u>31</u>	2	<u>39</u>	4	70
未成幼稚園	—	—	2	45	<u>1</u>	<u>28</u>	3	73
安倉幼稚園	—	—	2	53	2	59	4	112
中山五月台幼稚園	—	—	<u>1</u>	<u>25</u>	2	43	3	68
丸橋幼稚園	—	—	2	49	2	43	4	92
長尾南幼稚園	—	—	2	<u>39</u>	2	46	4	85
計	1	4	22	439	21	493	44	936

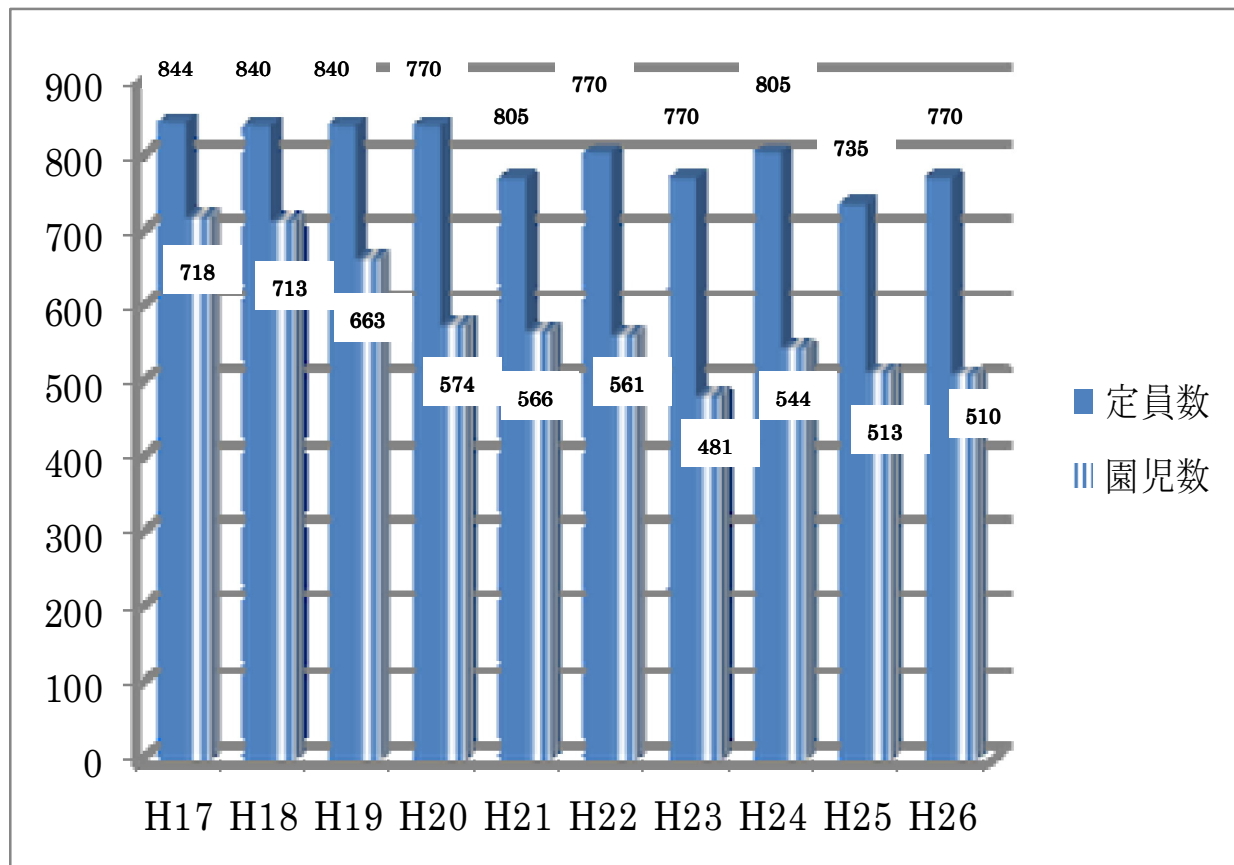
宝塚市公立幼稚園 定員数及び園児数

各年度5月1日現在

① 4歳児



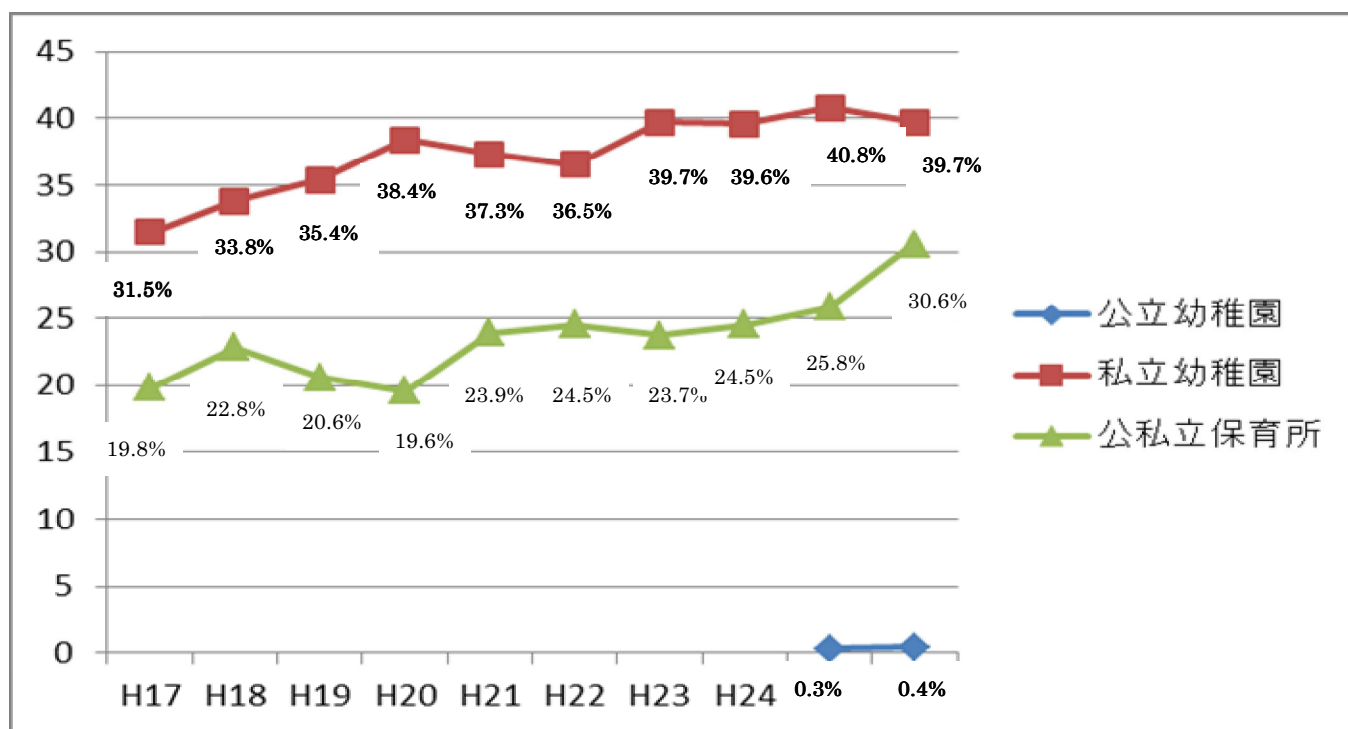
② 5歳児



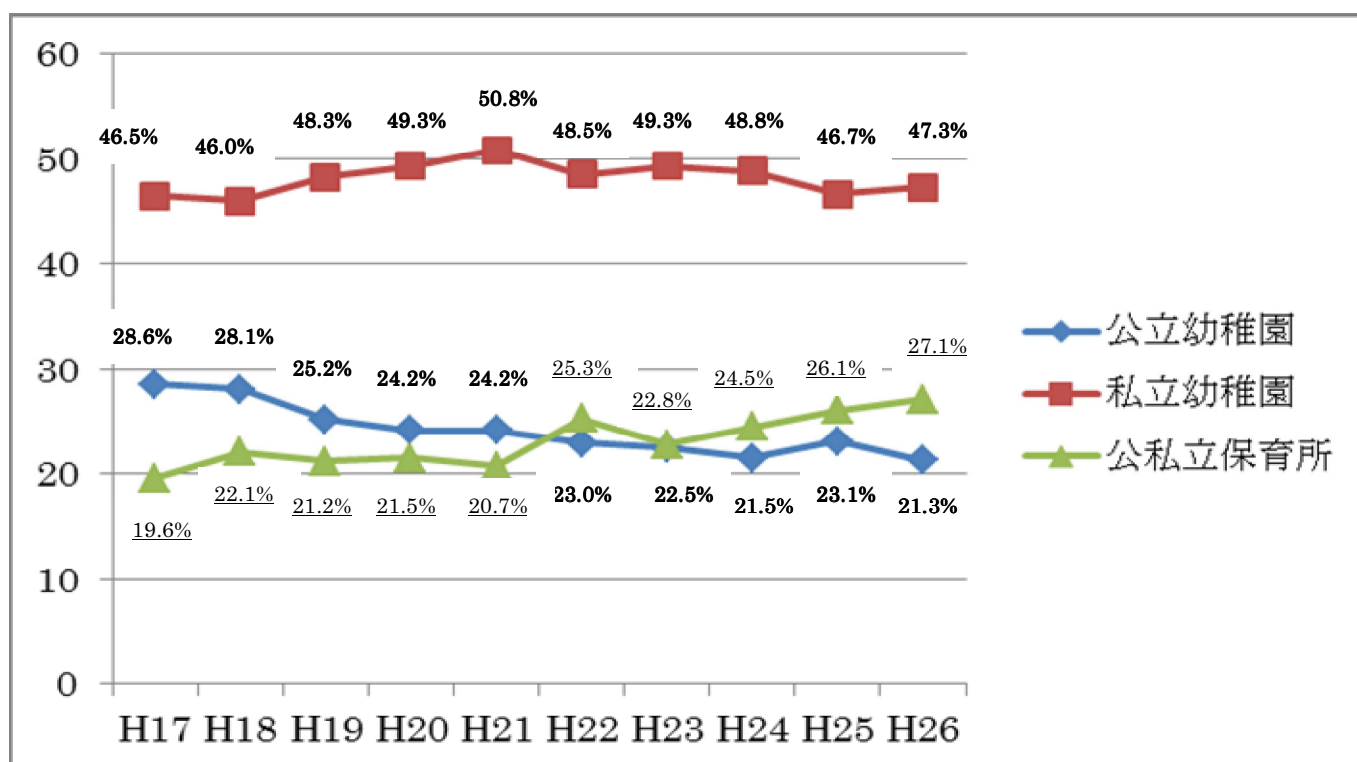
宝塚市内幼児の公私立幼稚園、保育所への就園（入所）率の推移

① 3歳児

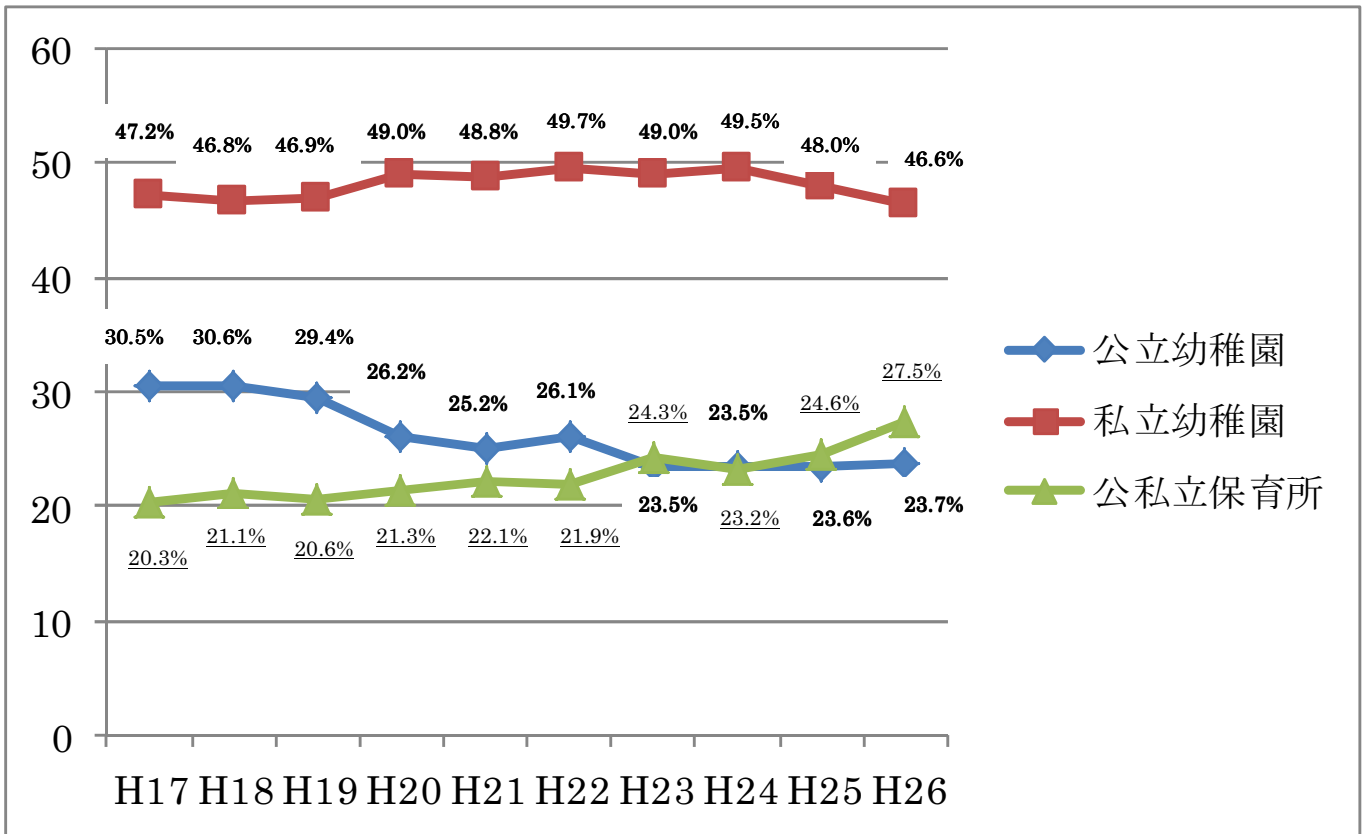
各年度5月1日現在



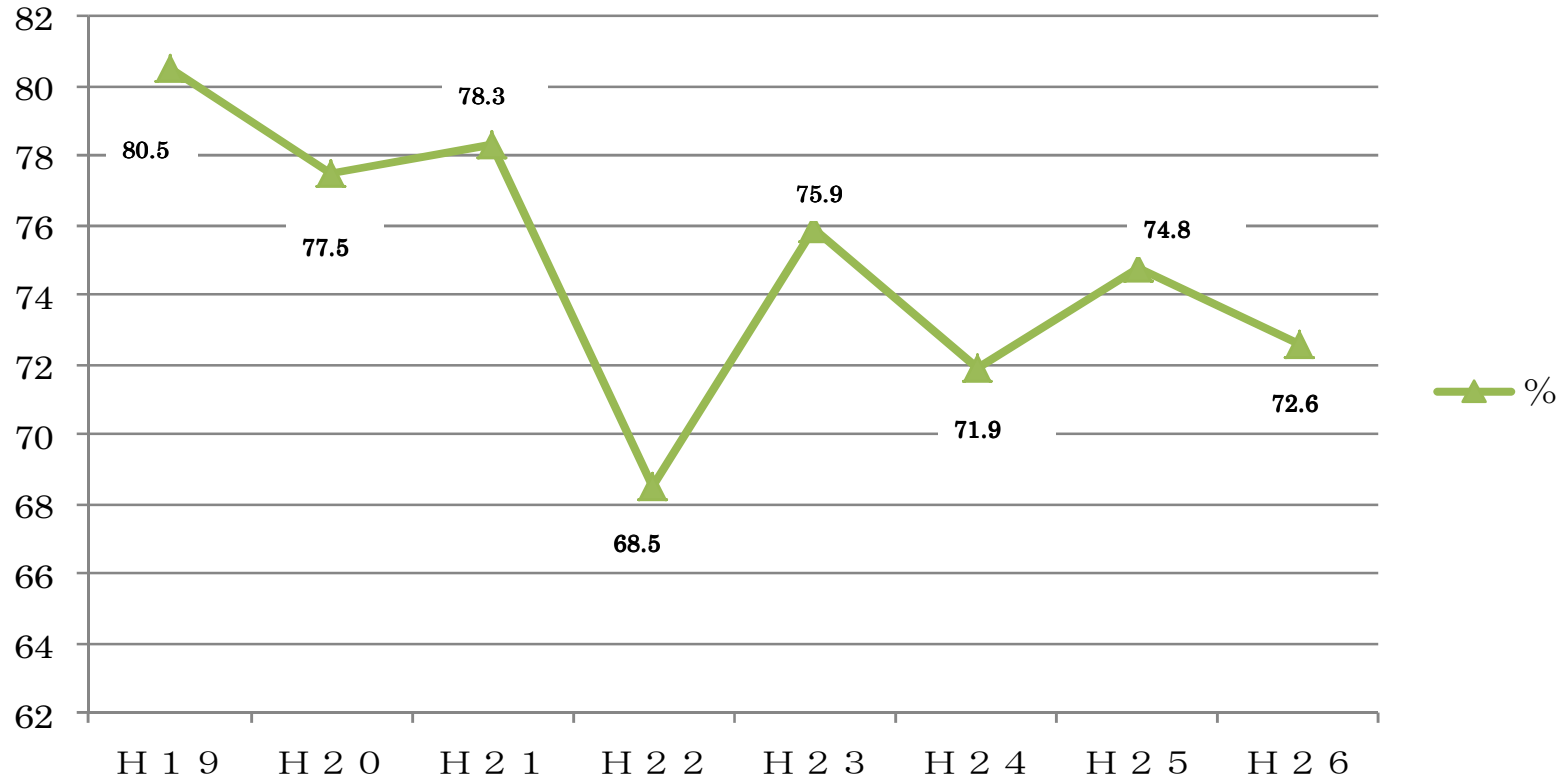
② 4歳児



③ 5 歲兒

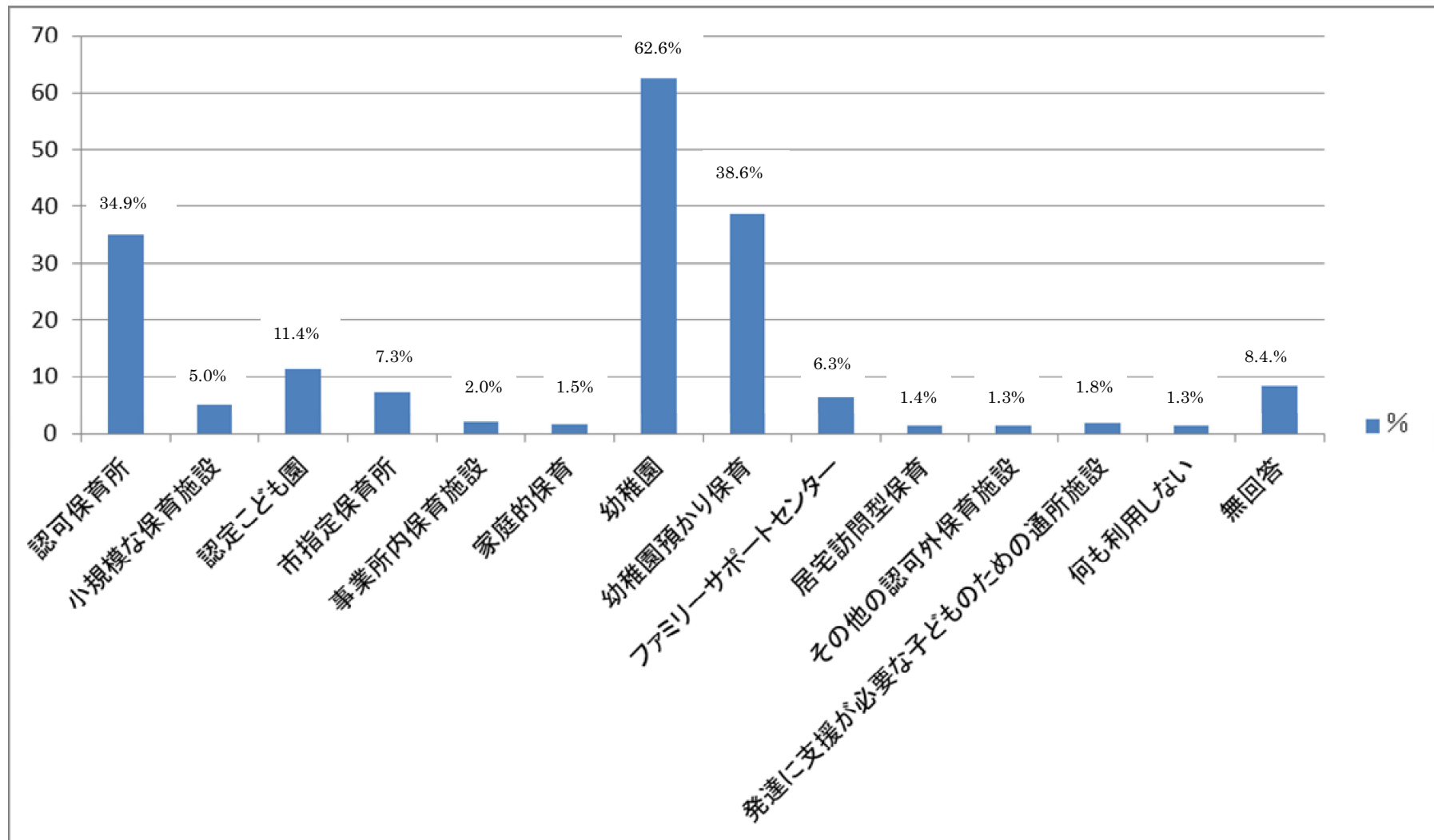


公立幼稚園4歳児定員に対する応募者数の割合



保育所・幼稚園等の利用希望（3歳になってから小学校に入るまで）

～「子どもの成長と子育てに関するアンケート調査」より



※ 複数回答

※ 保育所・こども園・幼稚園間の重複回答を含む

幼児教育センター概要

1 目的

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。このことを踏まえ、本市の幼児教育全般の充実を図ると共に、教諭・保育士の質の向上及び就学前教育と小学校教育との連携および特別支援教育の推進に資することを目的とする。

2 事業内容

(1) 公私立幼稚園、保育所、認定こども園教育の推進及び教諭・保育士の質の向上推進

幼児教育内容の充実

- ・ 幼稚園・保育所での研究実践
- ・ 公私立幼稚園・保育所対象の合同研修の実施
- ・ 幼保一体化の調査研究

(2) 保幼小中の連携推進・・・小1プロブレムへの対応

- ・ 幼稚園・保育所連携協議会
- ・ 保幼小中連携教育推進
- ・ 「つながろう！プレ1年生！！」事業

(3) 特別支援教育の推進・・・特別に支援を要する子ども理解と適切な支援と就学前

から就学に向けてのスムーズな接続

- ・ 就学前の特別に配慮を要する子どもの一括把握と小学校への引き継ぎ

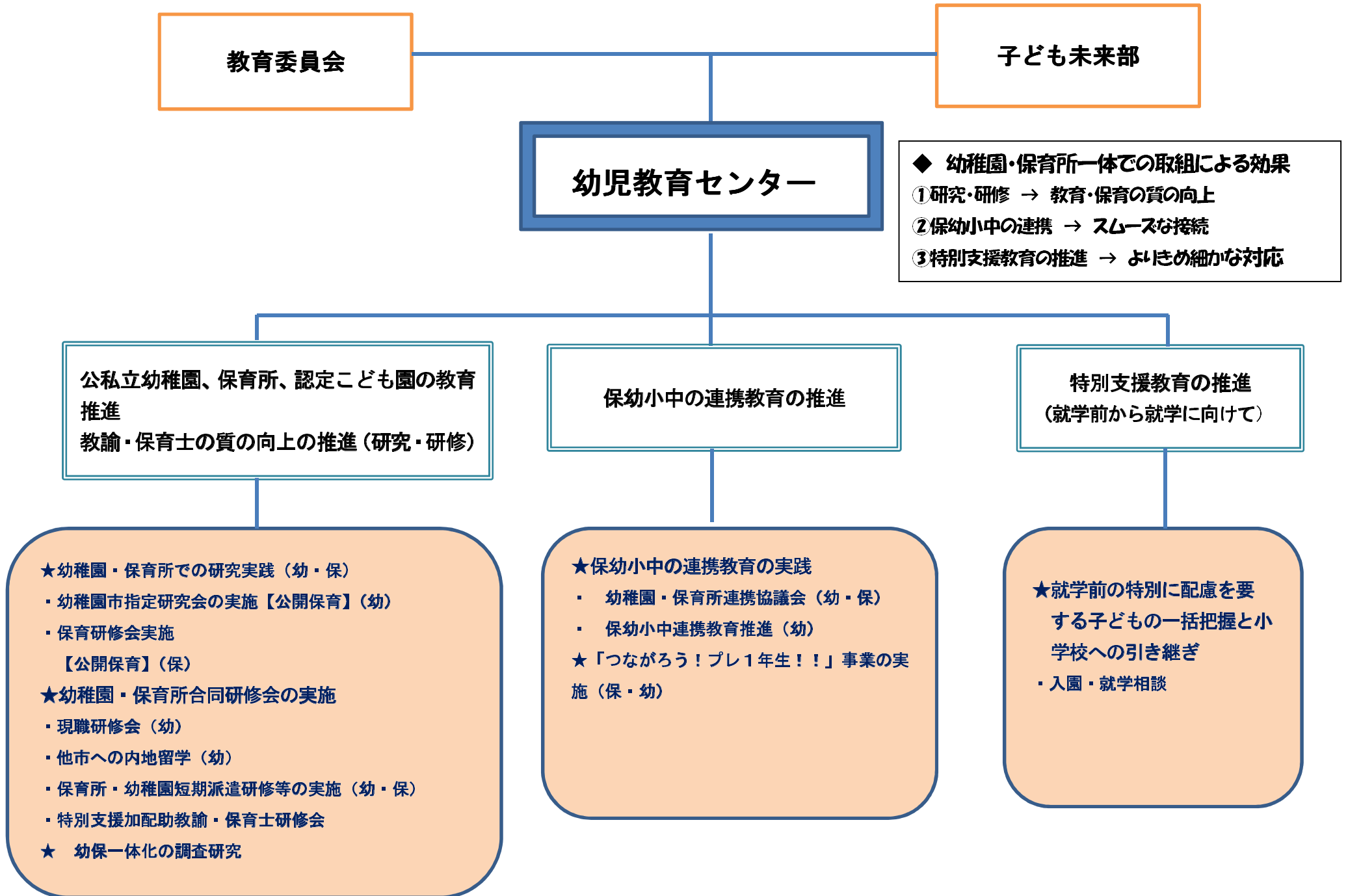
3 設置場所及び体制

(1) 設置場所 市立幼稚園の空保育室を予定

(2) 体制

- ・ 幼稚園教諭・保育士・保幼小中連携担当

【イメージ図】



市立幼稚園に関するアンケート集計表(在園児)

配布数 930 回収数 743 回収率 80% アンケート実施日H27・5月

		良元	小浜	宝塚	長尾	西谷	仁川	西山	未成	安倉	中山五月台	丸橋	長尾南	平均
【問1】市立幼稚園を選択した理由	1 保育料が私立幼稚園に比べて安い	51	77	62	65	42	49	58	74	70	62	73	57	62
	2 居住している地域にあるので通いやすい	71	47	49	58	89	72	66	69	63	51	76	63	65
	3 近隣に小学校があるので、小学校へのスムーズな移行ができる	69	52	57	67	31	81	61	35	68	42	77	75	60
	4 地域の子ども同士の人間関係ができる	43	42	49	67	58	61	39	52	64	62	51	51	53
	5 地域の方とのつながりがもてる	28	19	32	31	47	32	19	24	33	32	16	25	28
	6 自然体験など直接体験が重視されている	28	21	41	48	16	27	36	20	29	66	7	9	29
	7 特色ある教育内容(英語、そろばん等)でなく、幅広い体験ができる	11	15	32	23	5	10	28	15	10	21	1	6	15
	8 その他	2	15	16	16	5	6	17	0	4	15	9	6	11
【問2】市立幼稚園で今後、希望する内容について	1 子どもへの体力づくりをしてほしい	41	29	56	63	37	52	47	48	52	36	39	54	46
	2 小学校生活につながる力をつけるため幼稚園の教育活動を充実してほしい	41	48	33	43	74	44	34	57	42	43	55	43	46
	3 3年保育を実施してほしい	46	47	46	48	16	47	59	41	37	45	52	51	47
	4 預かり保育を充実してほしい	20	26	29	23	16	32	30	17	29	34	33	22	26
	5 幼稚園で給食を実施してほしい	54	63	49	48	16	54	55	39	58	51	67	63	55
	6 特色ある教育内容をしてほしい	10	11	3	4	5	1	8	9	6	10	10	3	7
	7 子育て支援の充実	23	10	13	7	26	3	13	10	8	11	4	14	12
	8 その他	51	6	5	8	5	3	3	4	6	10	6	5	9
【問3】問2で「3年保育」を選択された理由	1 早い内から同年齢の子どもとのつながりができる	77	35	30	71	11	32	33	28	71	71	69	67	53
	2 異年齢の友だちと関わることで友達関係が広がる	55	13	24	33	11	8	16	13	36	54	49	21	29
	3 集団生活を体験することで社会性が育つ	77	31	30	71	11	35	39	26	84	71	54	73	54
	4 子育てにゆとりがもてる	50	29	29	71	11	33	41	24	52	67	66	67	48
	5 保護者同士のつながりができる	38	10	19	22	11	13	16	11	39	25	20	21	21
	6 その他	16	3	5	10	11	3	9	0	16	21	0	0	8
【問4】問2で「預かり保育の充実」を選択された理由	1 預かり保育時間の延長(早朝・夕方)を希望	75	18	27	54	11	27	19	15	63	78	73	93	46
	2 預かり保育の時間が延長されたら、就労したい(はい)	75	18	22	64	11	20	28	11	83	61	82	79	46
	(いいえ)	62	0	2	0	0	3	2	0	0	0	0	7	6
	3 その他	29	3	3	3	11	1	2	0	25	28	0	7	9

市立幼稚園に関するアンケート集計表(未就園児)

配布数 391枚 回収数 363枚 回収率 93 % アンケート実施日 6月～7月

		良元	小浜	宝塚	長尾	西谷	仁川	西山	末成	安倉	中山五月台	丸橋	長尾南	平均
【問1】幼稚園を選択する時に参考とする内容について	1 教育内容が自然体験など直接体験を重視している	52	45	95	79	83	85	65	63	72	87	50	39	70
	2 教育内容が英語、そろばん、音楽活動等と特色がはっきりしている	0	10	8	8	50	15	10	2	6	10	4	6	8
	3 3年保育を実施している	22	28	22	35	83	30	35	13	30	26	21	17	26
	4 長時間保育をしている	4	17	24	23	33	19	15	11	17	23	8	6	16
	5 自宅から近い	87	69	70	75	67	89	75	96	72	77	42	78	79
	6 保育料金が安い	43	83	68	52	50	41	40	61	54	48	50	50	55
	7 園バスがある	4	10	8	10	17	4	0	7	7	13	4	0	7
	8 給食がある	13	28	41	25	50	26	15	20	24	16	17	11	23
	9 その他(先生の感じ、教職員同士の方向性が同じか、地域とのつながり、上の子の学校に近い、教諭の質、職員人数が子どもの人数に応じて十分にある、兄弟と同じ、同じ学区に行くお友達が多い)	9	7	5	4	17	0	5	7	2	6	4	0	4
【問2】市立幼稚園で今後、希望する内容について	1 子どもへの体力づくりをしてほしい	65	38	54	92	67	60	45	50	70	65	75	39	60
	2 友達関係の基盤を培ってほしい	74	48	57	65	67	70	55	67	52	68	75	28	68
	3 小学校と幼稚園との連携を深め、小学校にスムーズに進める力をつけてほしい	74	45	54	50	67	37	30	54	43	65	50	44	50
	4 3年保育を実施してほしい	57	69	76	54	50	78	80	52	65	61	54	78	64
	5 預かり保育を充実してほしい	17	24	30	52	50	30	35	24	15	42	38	28	31
	6 幼稚園で給食を実施してほしい	52	66	76	56	67	70	45	50	59	52	50	33	56
	7 特色ある教育をしてほしい(体操・楽器・自然体験・地域とのかかわり・跳び箱・裏山・英語・ピアノ・文字・運動・身体づくり・パレオ・ピアノ)	0	7	11	6	33	11	10	2	11	6	8	11	8
	8 子育て支援の取組を充実してほしい	4	24	14	19	17	11	5	17	11	10	17	11	14
	9 その他(午後保育の日数を増やしてほしい、外遊びの充実を願います、園と家庭、先生と親、子どもの関係をもっとオープンにコミュニケーションをとってほしい、園バス・下の子がいて登校班の当番ができない・3歳児の通える週3のクラス・未就園児対象のクラス数を増やす・学方の基を、のびのびと遊ばせてほしい、給食を実施して	4	3	3	2	17	4	0	2	2	10	0	0	2
問3	問2で「4 3年保育の実施」を希望された方 1 3年保育が始まれば、利用されますか。	100	95	100	92	100	100	100	96	69	89	100	100	90
【問4】問2で3年保育を選択された方 理由 選択	1 早いうちから同年齢の子どもとつながりができる	77	75	82	42	100	90	55	83	57	74	69	86	66
	2 異年齢の友だちと関わることで友達関係が広がる	38	30	39	31	67	43	35	21	37	58	29	21	41
	3 集団生活を体験することで社会が育つ	85	65	68	92	100	90	55	71	54	74	50	64	73
	4 子育てにゆとりがもてる	77	80	79	50	17	33	50	42	37	79	42	50	55
	5 保護者同士のつながりができる	15	35	25	27	17	33	15	4	24	5	25	29	24
	6 その他	0	15	7	4	0	5	0	4	4	5	4	0	4
【問5】問2で6 育の充実と回答された方 預かり保	1 預かり保育時間の延長(早朝・夕方)を希望	75	57	92	72	0	75	40	64	17	92	56	40	71
	2 預かり保育の時間が延長されたら、就労したい	25	86	45	76	17	88	15	18	11	92	67	40	60
	3 その他	0	100	9	0	0	0	5	0	0	8	0	20	3

% (小数点第1位を四捨五入)